

よりよいspringのために 大切にしたい5つのこと

～springプロジェクトのこれまでとこれから～

常葉大学保育学部 赤塚めぐみ

Springプログラムとは

Shizuoka **P**rimary-education system “**ring**”

静岡県幼児教育センター
マスコットキャラクター

【わっ！ぴょん】

- 幼稚園・保育所・こども園・小学校が連携して作り出す「和」と「輪」
- 就学前から学校にかけての段差を「ぴょん」と飛び越える。



すべての子どもの
Well-Beingをめざして



インクルーシブ教育(保育)とは (障害者の権利条約, 2014)

1. 人間の潜在能力、尊厳、自己の価値についての意識を十分に発達させること
2. 心身的能力をその可能な最大限度まで発達させること
3. 自由な社会に効果的に参加できるようにすること

学び方の
個性を知る
(学習の個性化)

学び方に合わせた
指導・支援法
を選ぶ
(指導の個別化)

架け橋期を

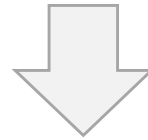
みつめる

—架け橋期の現状と課題—

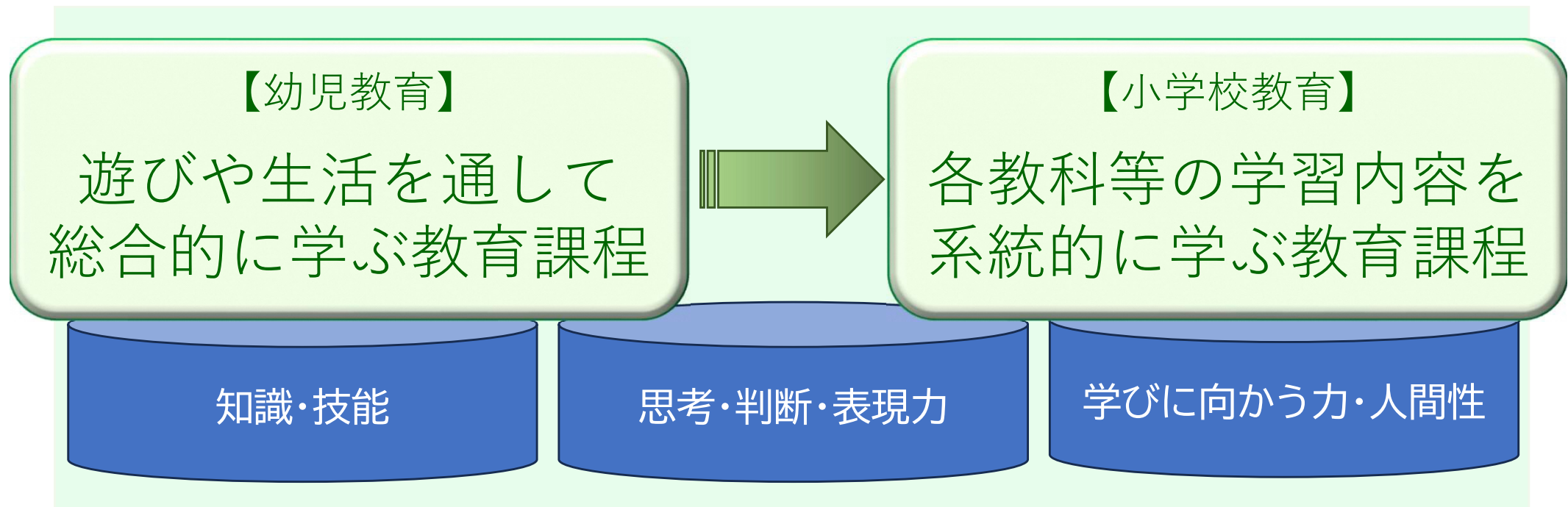


幼小接続の難しさ

- 育てたい資質・能力は、3つの柱として共通しているが、教育課程や学び方（教育方法）が異なる。



- 何をどうすれば「連続的で円滑な接続」になるのか、幼児教育施設と小学校の間で分かりにくい



幼小接続の取り組み例

1. 幼児と小学生の交流

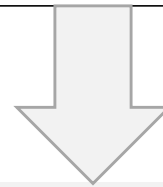
- 知っている場所・人・活動が増えることで安心が得られる。

2. 教員間の研修交流

- 教師が日課や教育方法の違いを理解できる。
- 育てたい資質・能力をどのように接続するかを考える機会が得られる。

3. 生活科を中心としたスタートカリキュラム

- 児童が小学校のカリキュラムや日課に慣れつつ、学ぶことができる。



これらの利点を活用しつつ・・・

体験を通じた学習と並行して、「聞く・話す」や「読む・書く」を含めた学びの接続についての整備が必要

小学校1年生における学習の問題 (文部科学省,2022)

- 小中学校全体では **8.8%** が要支援
- 小学校全体では **10.4%** が要支援
- 小学1年生だけを見ると・・・
 - 学習面で要支援 **9.1%**
 - 行動面で要支援 **5.6%**

学習面での困難が1年生で最多であり、行動面の困難を大きく上回るが・・・

- ◆ 入学時からの通級利用はほとんどない
- ◆ 巡回相談は行動面への対応が中心
- ◆ 通常の保育・教育の中で、学習困難への合理的配慮は充足しているだろうか？

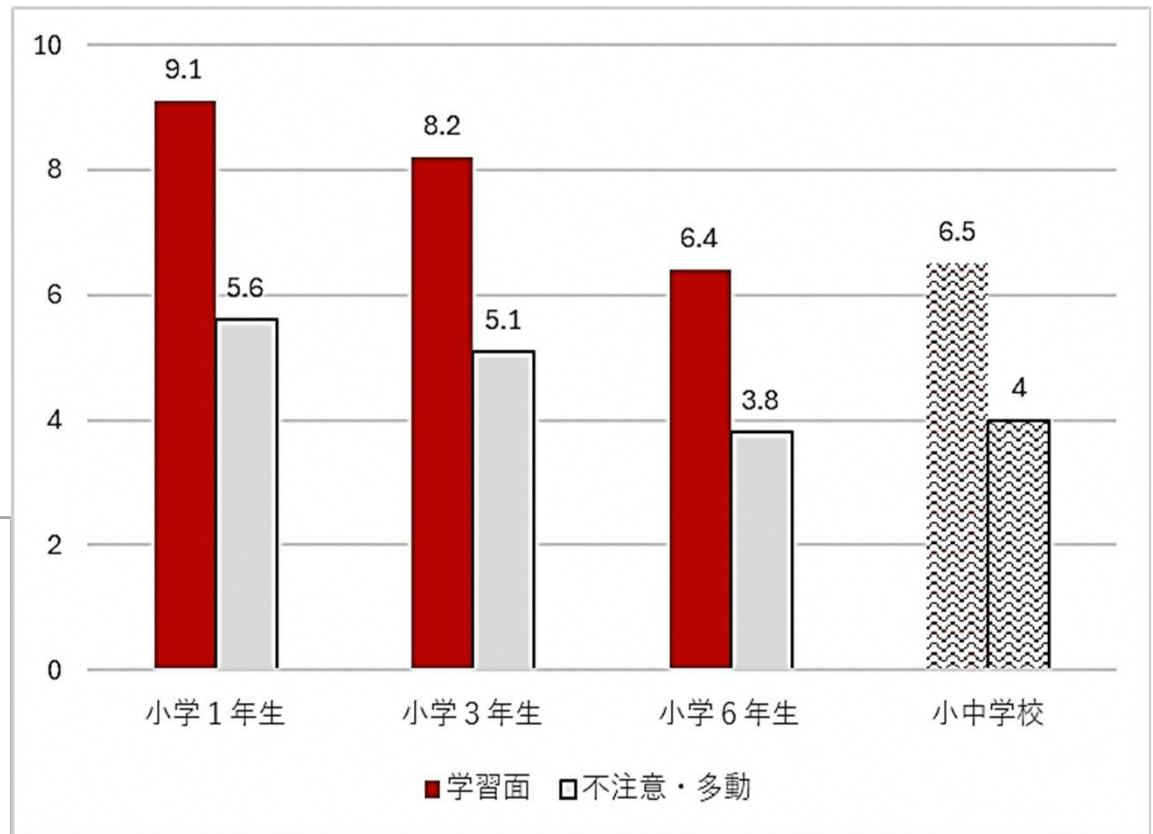


図1. 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒数の割合 (文部科学省,2022に基づき作成)

小学校入学初期から「努力が成果に結びつかない学習」の経験を積み重ねることで、無力感の学習につながるリスク

子どもの学習努力を「成果」につなげるために

- 学びに用いる『道具(ことば)』が変化することへの配慮

遊びや生活を通して
総合的に学ぶ教育課程

各教科等の学習内容を
系統的に学ぶ教育課程

文字学習移行期

話しことば(対話)

話しことば・書きことば

これまでの
保育
教育

【ことばの働き】 コミュニケーション・思考・行動調整

【ことばの発達】 ことばを理解すること ・ 話すこと

【支える力】 音韻意識 ・ 聴覚記憶 ・ 視空間認知

これからの
保育
教育

Springで採用した4つの「支える力」

音韻操作

単語を構成する音が分かり、
その音进行操作する力
(例；しりとりに等)

聴覚記憶

聞いたことを記憶する力

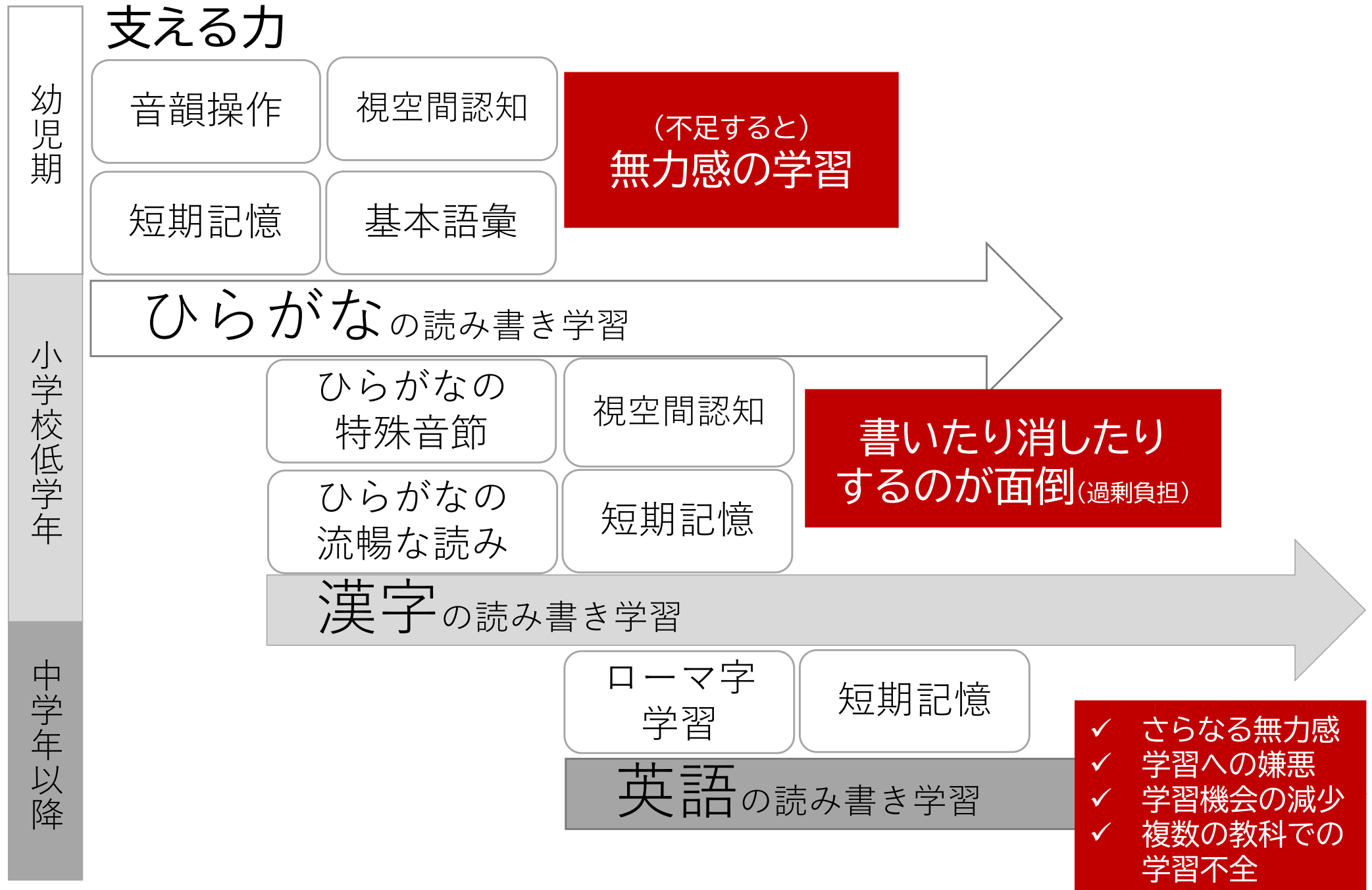
視空間認知

形や向きなどを見極める力
(例；「い」と「こ」など)

基本語彙

日常生活で使う言葉の意味
を理解する力

読み書き学習に関する従来の研究 (小池ら, 2024)



Springプロジェクトの試み

「ひらがな習得を支える力」のアセスメントと支援方法の開発

支える力

音韻操作

視空間認知

基本語彙

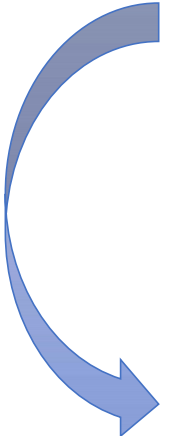
短期記憶



担任保育者が実施可能なアセスメント法の整備

(教育/保育教諭による学習のアセスメント)

- ✓ 学びに関するアセスメントは教育中で行う
- ✓ 学習成果のアセスメントができれば、保育計画が立てやすい



担任保育者がクラスワイドで実施可能な支援法の提案

(教育/保育教諭による学習のつまづきへの介入)

- ✓ 普段使いの「手遊び」や「言葉遊び」を活用する
- ✓ 小学校の前倒し教育ではなく、遊びを通じた学びの実践

Springプロジェクトのポイント

「ひらがな習得を支える力」のアセスメントと支援方法の開発

- ◆ ひらがなを用いずに「支える力」育む
- ◆ 幼児期だからこそ「あそび」にこだわる
- ◆ 実態把握から支援までの流れを担当が行う

小学校の前倒し教育とは異なり、
あそびの中で総合的に育む教育の提案

支える力から
はぐくむ

—保育プログラムの開発と実践—



アセスメントの実際 ①

支える力

音韻操作

視空間認知

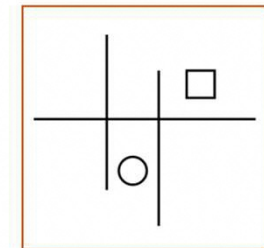
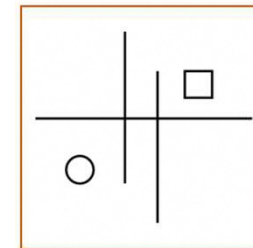
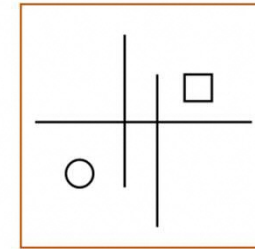
基本語彙

短期記憶

ひらがなの読み書き学習



- 単語を聞いて、いくつかの音から構成されているかを問う課題
- ひらがなの文字－音の対応学習を支える力



- 見本と同じ形を探す課題

アセスメントの実際 ②

支える力

音韻操作

視空間認知

基本語彙

短期記憶

ひらがなの読み書き学習



あそぶ

真似して言ってね。
「ためら」

ためら！

➤絵本や日常生活において高頻度
で使われる単語の意味を問う

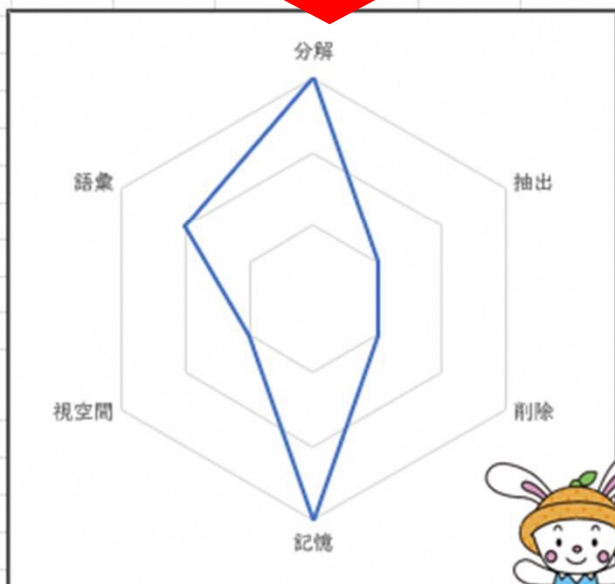
計7課題を10～15分で個別に実施

アセスメントの実際 ④

つながりシート

園名	クラス	
わっぴょんこども園	うさぎ	
なまえ Aさん		
生年月日	実施日	実施時の年月齢
2018/9/1	2024/9/3	6歳 0ヶ月

音韻		視空間 認知	基本 語彙
分解	抽出		
	*		*



【 所 見 】 ■音韻操作（ことばの音を操作する力） ークラス全体への指示や説明だけでなく、個別に分かりやすい言葉で伝え直したり、手掛かりを与えたりするなど、手厚い働きかけによって活動しやすくなります。 ー言葉を構成する「音」の操作に、とても時間がかかるようです。クラスのペースで行うには、負担が大きいかもしれません。苦手さに配慮した働きかけがあることで、活動に参加しやすくなります。	■聴覚記憶（聞いた情報を覚える力） ー必要な力が順調に身についています。 ークラス全体への声掛けによって活動できます
■視空間認知（見たものの形や空間を認識する力） ークラス全体に見本を示すだけでなく、大人が目の前や隣に座って、個別に見本を示すと活動しやすくなります。その際、見てわかりそうなことも、改めて言葉にして伝えと良いです。 ー図や記号の形を把握するのに、とても時間がかかるようです。お手本と見比べるときに、図の向きや全体像など、複数の情報を捉えることが難しいかもしれません。紙に描くことが難しい場合は、形を体で表したり、紐を使って表したりするなど、様々な感覚を通して表現する機会を増やすと理解が促されます。	■基本語彙 ークラス全体への指示や説明に加えて、個別の注意喚起や説明があると活動しやすくなります。 ー普段よく聞いている言葉でも、意味を取り違えているものがいくつかありそうです。指示や説明場面では、話の最後に少しやさしい表現に言い換えることで活動がスムーズになります。

○この情報を就学予定の小学校と共有してもよろしいですか？

【 はい ・ いいえ 】

保護者署名：

アセスメントの実際 ⑤

Springアセスメント クラス一覧

【

】

No.	なまえ	音韻操作			聴覚 記憶	視空間 認知	基本 語彙	ひらがな 読み
		分解	抽出	削除				
1	A			* *	*	*		
2	B		*	* *	*		* *	
3	C							

- クラス全体の学びの実態を把握し、
- 育てたい力を、
- 子どもたちと遊びながら育む

【後ほど実演します】



アセスメント結果は、

- ◆ その時点での子どもの学びの姿
- ◆ 教育的な働きかけで変わりうるもの

あそびの実際 ①

- 音韻操作、視空間認知、基本語彙、短期記憶を育む遊び

例えば…

読み聞かせ前の 5分

朝の会 の 一部として

ちょっとした待ち時間に

子どもたちが、「楽しい！」「簡単！」と思える活動を。
保育者にも負担がないように。

馴染みのあそび
をアレンジ

スモールステップ
での遊び方



あそびの実際 ②

クラス② あそんでみよう！

おとわけポン！

～「あたま・かた・ひざ・ポン」で～

音韻分解
音韻抽出

聴覚記憶

視空間
認知

基本語彙

- 《ねらい》
- ◆単語を構成する音を分解できる。
 - ◆単語を構成する音が、どのような順序で並んでいるか分かる。
 - ◆お題のことは聞いて覚え、繰り返すことができる。

《準備物》 【必ず用意するもの】【あると便利なもの】 なし

《あそび方》

「ロンドンバス」の動きを
替え歌アレンジした手あそびです。



あたま



かた



ひざ



ポン！

ひざ ポン！ ひざ ポン！

あたま かた ひざ ポン！ やってみよう！



と



け



い



※ひとつのお題を2回繰り返したり、
いくつかのお題を続けて出したりします。



け！



い！

☆続けてクイズを出題！

「では、クイズです」
「『とけい』の“さいごの音”は何でしょう？」

え〜っと…



クラス② あそんでみよう！

動画をCheck!



こちらのQRコードから
あそびの様子を動画で見ることができます！
<https://youtu.be/aFWN0ffs6lw>
このあそびの動画(2分30秒)



《ちょこっとワンポイント》

★はじめは
ゆっくりなテンポで
取り組みましょう。

★お題のことは文字数で
難易度の調整ができます。

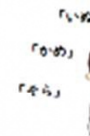
★ヒントは積極的に
出しましょう。

★慣れてきたら…
お題のことは言う役割を子どもに
任せてみるのもいいですね。

《こんな子いませんか？》

A スピードについていけない

○お題のことは文字数を統一し
リズム・動きを一定にして
取り組みましょう。



「いぬ」

「かめ」

「やら」



「いぬ」

「かめ」

「やら」

B 動きとことばが一致しない



○動きだけを真似して周りと合わせたり、
発言者や友だちの動きを見てことばだけを
まねたりする等、部分的に参加して見るの
もよいでしょう。

C どの音を尋ねられてるか分からない

※クイズの場合



ひざを叩いた時には
なんて言ったかな？

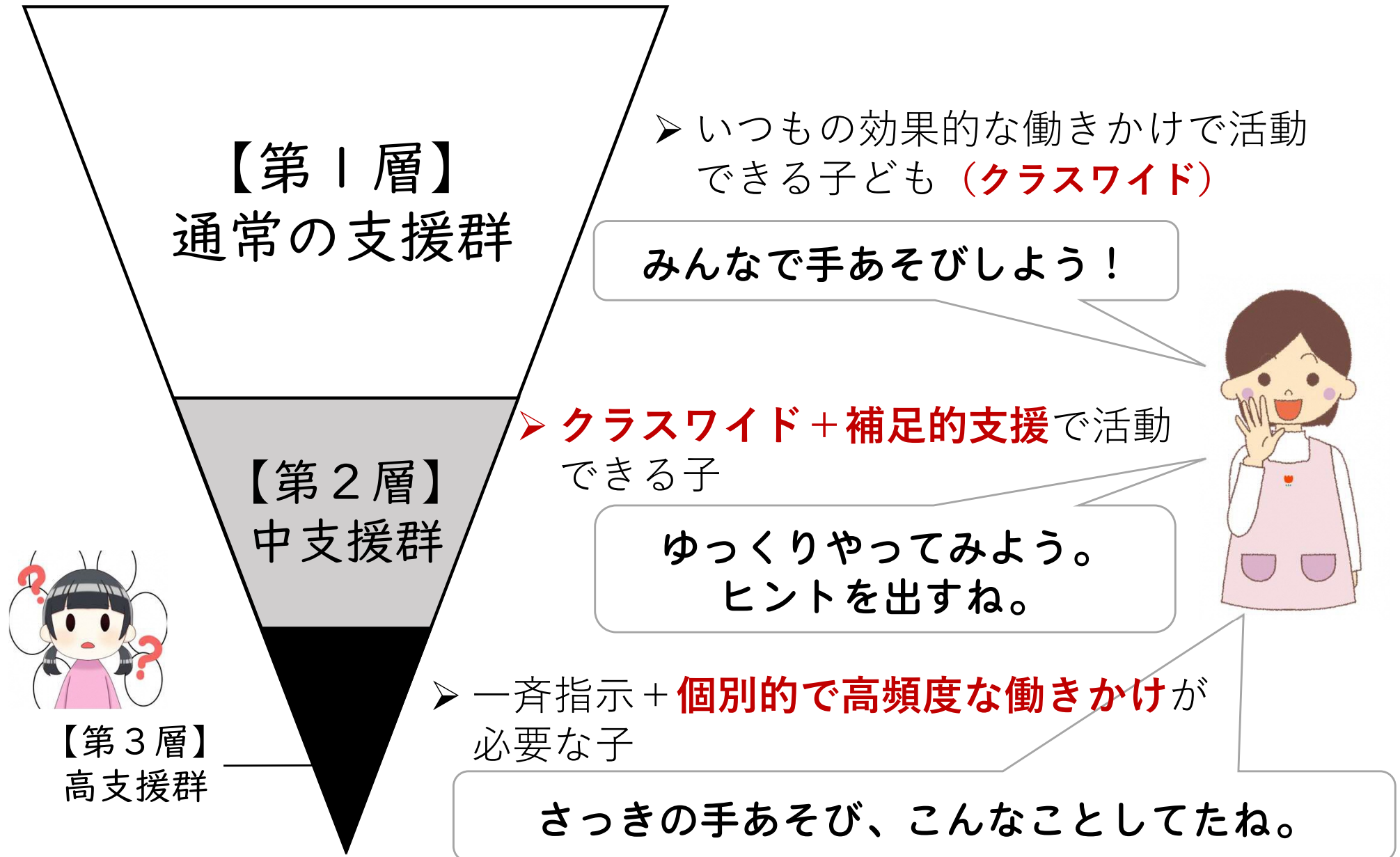
○動きと照らし合わせて
思い出そうに促してみましょう。



頭の中に
なんていうか
覚えておいてね！

多層支援モデルで取り組む

■ つまづきの場面と程度から捉える (RTIモデルの適用)



学びを
ふかめる
—保育の質の向上—



子ども達の声

次は5文字の言葉で！
(文字への感覚・自己目標の設定)

もっと難しい問題を
やりたい！(意欲)

それ、もうわかる！
できるよ！
(自立心・自己への期待)

僕が問題を出したい！
(表現・自立心)

〇〇ちゃん、
一緒に考えよう！
(思考・協同・人との関わり)

今考えてるから、
待ってて！
(思考・言葉による伝え合い)



幼稚園教育要領に基づく学びを確認できた

【効果の詳細は、トークセッションにて】

取り組みを通した保育者の声

1. 繰り返し遊ぶことで、子どもたちの発する単語のバリエーションが増えていった。
2. 理解して活動している子と、そうでない子を見極められるようになった。
3. アセスメントをしたことで、手遊び以外の活動の中でも、何を配慮したらよいか分かるようになった。
4. 育ちを促す遊びの工夫が分かるようになった
5. 自分たちの保育が小学校にどのようにつながるのかを理解できた。

【後ほど、協力園の先生方から直接コメントをいただきます】



学びのわくわくを
つなぐ
—横の連携・縦の連携—



子どもの情報をつなぐ

指導の過程を
伝える

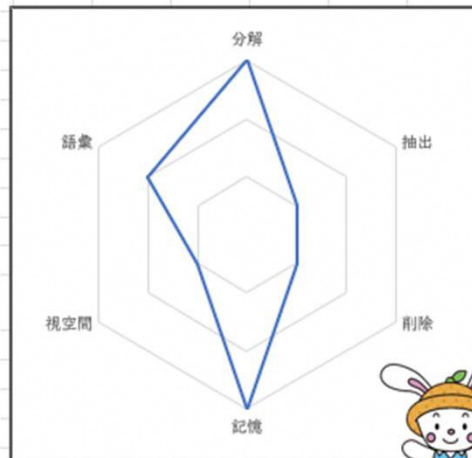
指導要録

学びを支える
力をつなぐ

つながりシート

園名 わっぴょんこども園	クラス うさぎ	
なまえ		
生年月日 2018/9/1	実施日 2024/9/3	実施時の年月齢 6歳 0ヶ月

音韻			聴覚 記憶	視空間 認知	基本 語彙
分解	抽出	削除			
	**	**		**	*



子どもの良さを
伝える

【おうちのかたより】



1年生スタート応援シート

ふりがな	生年月日		
お子さんの氏名	(男・女)	令和	年 月 日
入学予定の 小学校	小学校	在籍園	
小学校在籍の 兄弟関係			

1. お子さんの好きなもの・興味のあることや、よいところを教えてください。

2. 入学に際して心配なことやお子さんが苦手とすること、気にかけてほしいことがあれば教えてください。なければ記入しなくても構いません。
また、それに対してのご家庭での対応や(魔法のコトバ)を教えてください。

☐ 心配なこと・苦手とすること	☐ 家庭での対応

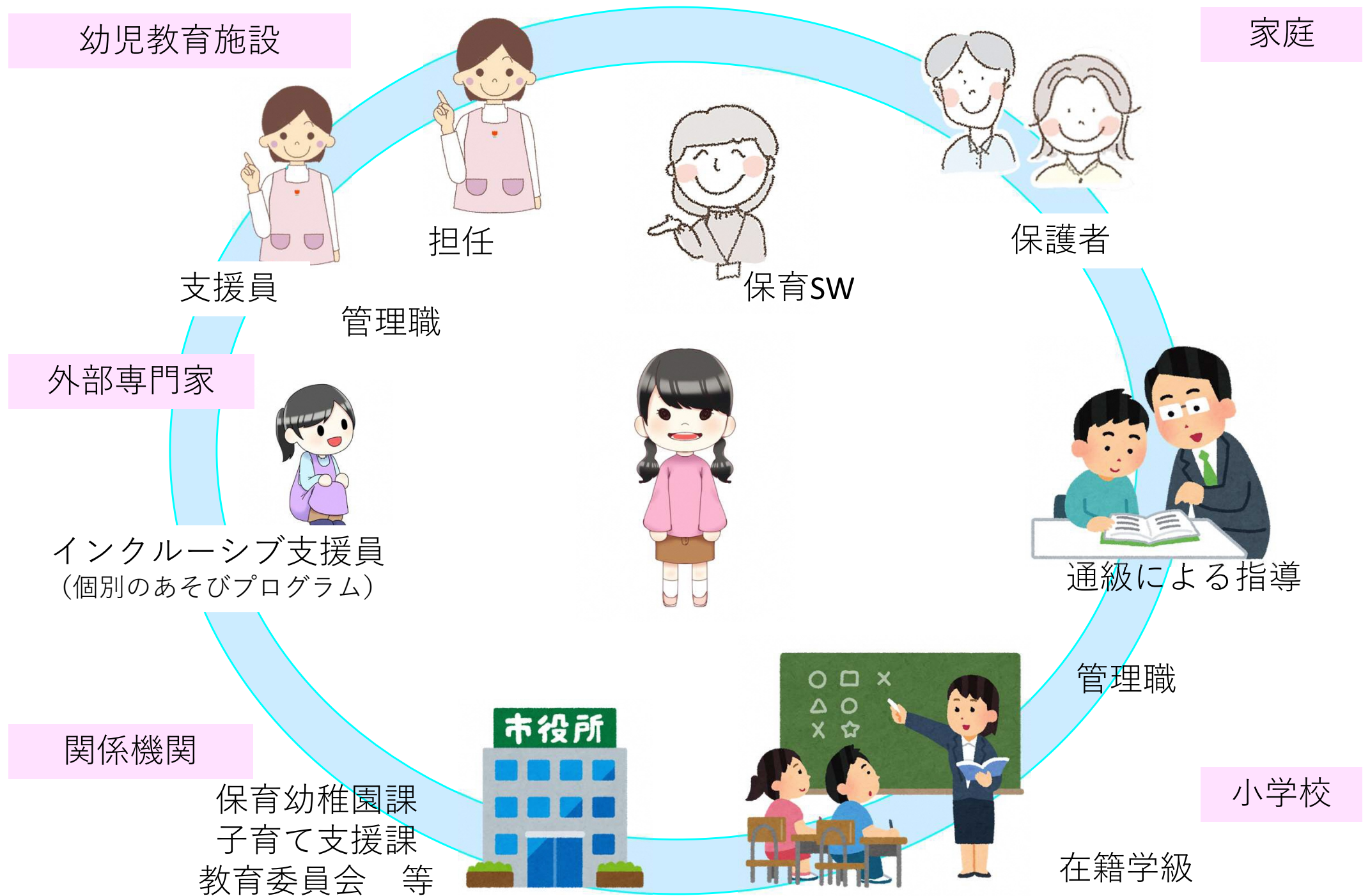
3. お子さんと関わる中で大切にしていることや、お子さんへの願いを教えてください。

*上記の情報や画での様子等について、就学予定の小学校と共有することに同意します。

令和 年 月 日

保護者署名: _____

子どもを中心にした支援の「輪」



小学校の受け止め

1. 保育SWの活用によって、入学前から就学後の配慮に向けた準備を進められた
2. Springの知識を得たことで、クラスで用いる言葉の長さや話すスピードを工夫した。伝わりやすくなったと感じた。
3. つながりシートによって、実際に連携した園以外の子ども達への指導についてもヒントが得られた。

幼小接続の枠組みだけでなく、
教育的な働きかけが具体的に改善・促進された。



まとめ

springプログラムは・・・

- ◆ 話しことばから書きことばへの移行を円滑、且つ総合的な学びの機会として機能させる
- ◆ 保育の知識とスキルの向上につながる
- ◆ 幼児教育と小学校教育でのが同じ題材・同じ方法で取り組むことのできる学びのツールになる

持続可能なプログラムのために、

- ・ アセスメントにおける担任保育士の負担を最小限にするための工夫
- ・ 遊びプログラムの充実
- ・ Springプログラムの効果に関する科学的根拠の集積